

令和元年 8 月 9 日

貝塚市議会議長  
真利 一朗 様

研修会参加報告書

公明党議員団  
前園 隆博

日時； 令和元年 8 月 1 日(木)、2 日(金)  
場所； 全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）  
研修名； 令和元年度第一回市町村議会議員特別セミナー  
内容；

8 月 1 日

- ① 講義 滋賀県の挑戦～みんなでつくろう！健康しが～  
講師 滋賀県知事 三日月大造氏

滋賀県の平均寿命は男性 1 位、女性 4 位、健康寿命も全国上位となっている。

滋賀県の長寿の秘密は、

1. 健康な生活習慣をもっている人が多い。タバコを吸う人が少ない、多量飲酒をする人が少ない、スポーツをする人が多い、学習・自己啓発をする人が多い、ボランティアをする人が多い。

2. 生活習慣を支える生活環境も良い。

失業者が少ない、労働時間が短い、県民所得が高い、所得格差が小さい、高齢単身者が少ない。

大切にしていることは、協働、対話、共感。

滋賀県の挑戦『健康しが』

※SDG s を県政に取り組みことを宣言、人の健康、社会の健康、自然の健康を目指す。

- ② 講義 人生 100 年時代とごちゃませ社会  
講師 社会福祉法人佛子園理事長 雄谷良成氏

石川県のシェア金沢は佛子園の病院跡の敷地に住まいや文化施設などを配置して一からつくりあげた街である。『私がつくる街』をコンセプトに計画段階から地元の自治会や町民館などの人たちを巻き込み、ドッグランも住民の要望で実現した。

子どもや大学生、高齢者まで、世代や障がいの有無を超えて、様々な人が一緒に暮らし、フリーマーケットなどの企画や施設の運営など、暮らしに関わることは住民参加で決めていく。

天然温泉やカフェは地元の人誰でも利用でき同じ管内に高齢者や障がい者のためのデイサービス、訪問介護の機能を備えている。

障がい者や高齢者が社会から隔離されることなく、みんなが共に助け合って生きていく『ごちゃませ』のコミュニティ。

退職後の居場所がなく中高年の引きこもりが増えておりその 7 割以上は男性。生きがいがあると生存率が高くなる。人生の目的があれば要介護リスクが下がる。

生涯活躍のまちの推進をおこなっていく。

8月2日

③ 講義 スポーツツーリズムを活用したまちづくり：スポーツがもたらす地域活性化の効果

講師 同志社大学スポーツ健康科学部教授 二宮浩彰氏

スポーツツーリズムとは、スポーツを見に行くための旅行や周辺観光のことを指す。スポーツがきっかけとなり、様々な土地へ旅行することで、より多くの人との交流や地域への消費増加といった経済効果が期待されている。

スポーツ消費者とは、スポーツに関わって、時間、金銭、労力を費やすことによって、スポーツから便益を得る購買者、参加者、観戦者、支援者のことである。

スポーツツーリストとは、日常生活圏外の場所に一時的に滞在してスポーツに関わる活動をする人々をさす。

スポーツデスティネーションとは、スポーツツーリズムの資源になりうる自然資源、スポーツ空間、スポーツ施設、スポーツサービスが存在し、スポーツツーリストを惹きつける魅力的な場所である。

スポーツツーリズムがもたらす地域活性化の効果

1. 対外的なスポーツデスティネーションとしての知名度とイメージの向上
2. スポーツイベント運営費と参加者の消費支出による経済波及効果
3. スポーツ施設の建設や改修と地域のインフラストラクチャー整備
4. 地域住民の一体感や帰属意識の醸成と参加者が抱く地域に対する愛着

スポーツツーリスト行動モデルの進展

製品中心のマーケティング⇒消費者中心のマーケティング⇒人間中心のマーケティングへ

④ 講義 関係人口のつくり方～ぼくらは地方で幸せを見つける～

講師 月刊『ソトコト』編集長 指出一正氏

地方圏は、人口減少・高齢化により、地域づくりの担い手不足という課題に直面しているが、地域によっては若者を中心に、変化を生み出す人材が地域に入り始めており、「関係人口」と呼ばれる地域外の人材が地域づくりの担い手となることが期待されている。

総務省では、地域外の者が関係人口となる機会・きっかけの提供に取り組む地方公共団体を支援するモデル事業を実施している。

今回、最初に関係人口を提案した『ソトコト』編集長の指出氏より講義がありました。

2016年に発行した著書『ぼくらは地方で幸せを見つける』でも提唱されました。

「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光にきた「交流人口」でもない、地域と多様にかかわる人々をさす言葉である。

これからは移住でも定住でもない観光でもない新しい人の流れが生まれ、それを支えていくことが

地域のアイデアになると提唱されました。

従来の観光案内所のかわりに、まちや地域につくらなければいけないのは、人と人との関係を案内する「関係案内所」である。

今回様々な実例を紹介していただいた。

奈良県の東南部、奥大和の下北山村で開催している「むらコトアカデミー」は東京・日本橋にある『まほろば館』で、受講生や卒業生の皆さんが下北山や奥大和を応援するイベントを開いている。名古屋の学生たちが受講している「奥大和アカデミー」は奈良県・天川村の洞川地区に迎えていただき、定期的にスナックシルキーを開いているなどの紹介があった。

感想；今回4つの講義があり、それぞれの地域がかかえる問題点を解決するための方策や活性化などについての取組みのお話がありました。大変参考になり、また勉強になりました。

今後本市においても活用できるものはないか検討していきたいと思います。

以上